

新入職員56名が「認知症サポーター養成講座」を受講

～ 認知症サポーターの資格者が668名に ～

大阪シティ信用金庫（本店 大阪市、理事長 高橋知史）は1月21日（火）、「認知症サポーター養成講座」を開催し、新入職員56名が受講しました。この講座は、認知症の方やその家族の応援者である「認知症サポーター」を養成するもので、平成23年から開催しています。

新入職員は、認知症の方への対応の基本姿勢を教わったあと、店頭窓口やATMコーナーなどの実践的な場面を想定し、手続きや操作でお困りの方にどのようにお声掛けすればよいかアイデアを出し合うことで、認知症の方の気持ちに寄り添って行動することの大切さを学びました。

受講後、認知症サポーターの証として「認知症サポーターカード」と「ピンバッジ」が授与されました。

当金庫の認知症サポーター資格者は、今回の受講者を含め668名となりました。今後とも、同サポーターを養成し、高齢者が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献してまいります。

記

1. 認知症サポーター養成講座

- (1) 開催日 令和7年1月21日（火）
- (2) 場所 本店10階研修室
- (3) 参加者数 新入職員56名
- (4) 講師 大阪市認知症介護指導者 今堀 富美代 氏

2. 認知症サポーターについて

認知症を正しく理解し、認知症の方やそのご家族を温かく見守り支えていく応援者です。厚生労働省では認知症サポーターの養成に取り組んでおり、その人数は令和6年9月末現在、全国で約1,567万人となっています。



講座の様子

以上



本件はSDGs（持続可能な開発目標）の考えに基づいた取り組みのうち、右記の目標に寄与するものです。

